

第4回 文化芸術振興審議会委員意見 まとめ（欠席者については聞き取り結果）

資料No1

将来の姿	理念・目標	冊子・表記	施設	子ども	所属団体として	その他
文化的格差是正。 市民が楽しいと思えるまちに。市民が楽しいと思えなかったら外から来た人も楽しくない。						
若い人が育つ。心の癒し。			施設・設備の整備。	鑑賞、体験、丹後学	国際交流協会を知らない人もある。プラットフォーム構築しいろいろな団体と連携したい。	
子どものため。楽しむ、好き。文化芸術を大人が楽しんでいる姿を子供たちに見せたい。						人権 愛す、人を大切にする。
長寿のまち。退屈しているより文化芸術で豊かに。						
いろんなジャンルの音楽をしている。プロを呼んだり市民も絡んで参加している。太鼓はたたけば音が出るから誰でも参加できる。						
			文化会館古い。これからどういう役割を担っていくのか。使っていくために何がなか。			
「芸術祭」どこかは何かやっている。年じゅう。音楽祭、映画祭 海などの風景にあうイベントを。		京丹後らしさを前面に。ビジュアル的には鈍色。丹後の風土にあった文化を育てる。				
外からの新しい風をどんどん入れることは不可欠。 施設は統合していてもオンラインなどでつながる仕組み。	豊岡のコピーは財力が違い厳しいのでは。ポトムアップは今も試みている。どう違うか。		・まんべんなく整備することは難しいのでは。いつまでも旧町？壁はらい拠点のみ充実。施設がないと文化育たない。 ・日高？文化体育館冷暖房、席、反響板。	丹後学改訂を機会に。故郷の良さ、人材育成。	高校の体制、教職員の働き方改革の影響により文化芸術を学校教育で担うことが難しく、今後は社会教育に期待が集まる。	音楽祭を開催するには拠点が必要。施設作ったら根ざすような定着するようなイベントをしないとイケない。
		「おもしろいまち」 「興味深くおもしろいまち」真ん中に楽しむ。	文化ゾーンに期待。活字や図書の良い、図書館+芝生 ホットする場所に			
ユニバーサルデザイン。飲食店マニュアル影アナ手話。スタッフのトレーニング。当事者の声も。						
やわらかい脳みそもった子供たちを育てるために文化芸術の力が必要。	文化は楽しいが一番。	概要版はわかりやすく芸術的なものに読んでみようと思うものに。何が大事かという図があればよい。	資料館は過去。未来に目を向ける館（ダンス、ライブ、軽音に使える場所）を。若い人を生かす場所。峰山地域公民館古い。今風の仕立て、部屋数多く。	知ると楽しい。好きになる。意義を知ることが大事。なぜしているのかわからなかったらさせられているように思う。	女性団体は「なぜ会で活動しているか」を振り返りながら社会の変化に応じて活発に活動している。ヨガ・フラダンスさかん。（文化会館大きすぎる）	ある程度楽しい。深み高み目指す。人が集まるところで発表。集える会館。
	豊岡は「何が」が押し出されている	学校、市民、市（行政）などの主体が何をすべきか、分担。例 学校は伝承、	すべてのハコモノを活用するのは無理がある。絞って濃く活用を。例えば峰山を拠点に「音楽や舞台は峰山」。	コミュニティ能力を養うには文化祭や発表会は必要。 人形劇大変良かったが親が連れていけない場合もある。保育園の単位で鑑賞など。	京都府商工会女性部連合会「おもてなし事業」食事・体験等	市のバックアップは必要だが市職員ではないコーディネーターを設置。市民を巻き込む仕組み作り。
拠点1か所だけでなく、あちこちで何かしらやっている。どの町でもイベントをやっている。屋外で音が出せる施設の整備。	「楽しむ」「盛り上げる」の視点。盛り上がってこそ楽しめる。	グラデーションで織物（ちりめん）を染め上げるイメージ。				見る側もアーティストの立場で育てる視線で見たい。演奏する側は見てもらう側も観客にどうアピールするかどう見てもらうかも勉強する。
子どもの成長、可能性。世界で活躍。自信持てるよう。 より具体的に。						
	「おもしろいまち」をつくる。丹後ならではの感性、丹後にしかないローカルな美学。		文化会館のあり方、文化ゾーンの再定義。	子どもが持つ感性、好奇心から学ぶ。←大人がなくなったもの		
京丹後らしい共通項を抜き出す	「楽しい」たいせつな視点	写真などトータルで「どのように見せるか」				
	年金生活者にやさしいまち（ドイツの例）楽しそうに魅力的に映る。	基本方針は色なしでもよい。				